

【15】平成30年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>内科学(消化器・肝臓内科) (Gastroenterology and Hepatology)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>伊 東 文 生</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>研究マインドを持った臨床消化器内科医の育成がゴールである。 疾患をベースに病態理解を深めることからスタートし、この点については消化器疾患、肝臓疾患、胆膵疾患に共通した教育を行う。 また、同時に近年その進歩が急である、分子消化器病分野での理解を深め、最新の分子標的治療への対応できる内容とする。 各疾患ごとの講義、カンファレンスを中心に、研究内容を理解するための抄読会、研究のカンファレンスへ出席していただき、消化器疾患病態との関連を学ぶ。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器・肝臓病総論 2. 肝臓病態学 3. 消化管病態学 4. 消化器・肝臓病分子病態学 5. 消化器内視鏡学実習
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>予め、下記の教科書の関連領域を読んでおくこと。 Molecular Biology of The Cell (Garland Science) Bockus Gastroenterology (Saunders)</p>

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器・肝臓病総論 I		必修/選択	必修
担当教員	伊東文生	担当教員連絡先	内線 3470	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	1. 消化管疾患の検査の進め方 ①	1	" ②	
2	" ②	2	" ③	
3	" ③	3	" ④	
4	" ④	4	5. 消化管の症候 ①	
5	" ⑤	5	" ②	
6	2. 消化管運動 ①	6	" ③	
7	" ②	7	" ④	
8	" ③	8	6. 肝機能検査の解釈 ①	
9	" ④	9	" ②	
10	3. 消化・吸収 ①	10	" ③	
11	" ②	11	" ④	
12	" ③	12	" ⑤	
13	" ④	13	" ⑥	
14	" ⑤	14	" ⑦	
15	4. 消化管ホルモン ①	15	" ⑧	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器・肝臓病総論Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	中原一有	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	興味ある症例・問題症例について検討し消化器・肝臓疾患の病態を深く理解する。			
講義計画	興味ある症例・問題症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を理解する応用力を身につけ、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患について病態を理解する応用力を取得し、理論的に説明できる。 2.消化器・肝臓疾患の病態に基づき、最新のエビデンスを導入した治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席㊟)	後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	7. 肝・胆の画像診断 ①	1	" ④	
2	" ②	2	" ⑤	
3	" ③	3	10. 各種病態 a. 黄疸①	
4	" ④	4	" ②	
5	" ⑤	5	" ③	
6	" ⑥	6	b. 肝不全・肝性昏睡 ①	
7	" ⑦	7	" ②	
8	8. 膵機能検査の解釈 ①	8	" ③	
9	" ②	9	c. 門脈圧亢進症 ①	
10	" ③	10	" ②	
11	" ④	11	" ③	
12	" ⑤	12	d. 肝・腎症候群 ①	
13	9. 膵の画像診断 ①	13	" ②	
14	" ②	14	e. 肝炎ウイルス ①	
15	" ③	15	" ②	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器・肝臓病分子病態学 I		必修/選択	必修
担当教員	松本伸行	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。			
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2.消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法の作用機序を理解し説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)	
1	細胞周期(I)	1	細胞周期(IV)	
2	“(II)	2	“(V)	
3	“(III)	3	“(VI)	
4	細胞内シグナル伝達(I)	4	細胞内シグナル伝達(III)	
5	“(II)	5	“(IV)	
6	細胞骨格(I)	6	細胞骨格(III)	
7	“(II)	7	“(IV)	
8	発癌遺伝子(I)	8	発癌遺伝子(IV)	
9	“(II)	9	“(V)	
10	“(III)	10	“(VI)	
11	癌抑制遺伝子(I)	11	癌抑制遺伝子(IV)	
12	“(II)	12	“(V)	
13	“(III)	13	“(VI)	
14	発癌メカニズム(I)	14	発癌メカニズム(III)	
15	“(II)	15	“(IV)	

講義担当者承認 Ⓞ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化管病態学 I		必修/選択	必修
担当教員	山本博幸	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内容 (出席Ⓞ)	
1	1. 食道疾患症例①	1	" ④	
2	" ②	2	" ⑤	
3	" ③	3	" ⑥	
4	" ④	4	4. 大腸疾患症例①	
5	" ⑤	5	" ②	
6	" ⑥	6	" ③	
7	2. 胃・十二指腸疾患症例①	7	" ④	
8	" ②	8	" ⑤	
9	" ③	9	" ⑥	
10	" ④	10	5. 消化管その他症例①	
11	" ⑤	11	" ②	
12	" ⑥	12	" ③	
13	3. 小腸疾患症例①	13	" ④	
14	" ②	14	" ⑤	
15	" ③	15	" ⑥	

講義担当者承認 ④

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	肝臓病態学 I		必修/選択	必修
担当教員	奥瀬千晃	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2 単位(前期 1・後期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	1. ウイルス性肝炎症例①	1	4. 胆道系症例①	
2	〃 ②	2	〃 ②	
3	〃 ③	3	〃 ③	
4	〃 ④	4	〃 ④	
5	〃 ⑤	5	〃 ⑤	
6	2. 肝細胞がん症例①	6	5. 膵疾患症例①	
7	〃 ②	7	〃 ②	
8	〃 ③	8	〃 ③	
9	〃 ④	9	〃 ④	
10	〃 ⑤	10	〃 ⑤	
11	3. 代謝性肝炎症例①	11	6. 肝・胆・膵その他症例①	
12	〃 ②	12	〃 ②	
13	〃 ③	13	〃 ③	
14	〃 ④	14	〃 ④	
15	〃 ⑤	15	〃 ⑤	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器内視鏡学実習 I		必修/選択	必修
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	3 単位(前期 1.5・後期 1.5)	履修年次	1 年	
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。			
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。			
達成目標	1.消化器内視鏡の原理を理解する。 2.上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内容 (出席Ⓞ)	
1	内視鏡モデル実習	1	内視鏡モデル実習	
2	〃	2	〃	
3	〃	3	〃	
4	〃	4	〃	
5	〃	5	〃	
6	〃	6	〃	
7	内視鏡画像特論(Ⅰ)	7	〃	
8	〃(Ⅱ)	8	〃	
9	〃(Ⅲ)	9	〃	
10	内視鏡モデル実習	10	〃	
11	〃	11	〃	
12	〃	12	〃	
13	〃	13	〃	
14	〃	14	〃	
15	〃	15	〃	

講義担当者承認



学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器・肝臓病総論Ⅲ		必修/選択	必修
担当教員	山本博幸	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内容 (出席Ⓞ)	
1	1. GERDとNERD ①	1	5. クロウン病の治療 ①	
2	〃 ②	2	〃 ②	
3	〃 ③	3	〃 ③	
4	〃 ④	4	〃 ④	
5	2. FD ①	5	6. 胃がん治療(非外科的) ①	
6	〃 ②	6	〃 ②	
7	〃 ③	7	〃 ③	
8	〃 ④	8	〃 ④	
9	3. <i>H.pylori</i> 感染症 ①	9	7. 大腸がんの治療 ①	
10	〃 ②	10	〃 ②	
11	〃 ③	11	〃 ③	
12	〃 ④	12	〃 ④	
13	4. 潰瘍性大腸炎の治療 ①	13	8. 抄読会①	
14	〃 ②	14	〃 ②	
15	〃 ③	15	〃 ③	

講義担当者承認 Ⓞ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器・肝臓病総論IV		必修/選択	選択
担当教員	山本博幸	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	興味ある症例・問題症例について検討し消化器・肝臓疾患の病態を深く理解する。			
講義計画	興味ある症例・問題症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を理解する応用力を身につけ、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患について病態を理解する応用力を取得し、理論的に説明できる。 2.消化器・肝臓疾患の病態に基づき、最新のエビデンスを導入した治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席Ⓜ)	後期(回)	内容 (出席Ⓜ)	
1	1. 大腸がんの遺伝子診断①	1	〃 ②	
2	〃 ②	2	9. 消化器がん化学療法 up date①	
3	2. 分子腫瘍学①	3	〃 ②	
4	〃 ②	4	10.ウイルス肝炎の進歩①病態・診断	
5	3. 転移の分子機構①	5	〃 ②	
6	〃 ②	6	11.ウイルス肝炎診療の進歩②治療	
7	4. 膵がんの分子機構①	7	〃 ②	
8	〃 ②	8	12.ウイルス性肝炎の肝外病変①	
9	5. 慢性膵炎の up to date①	9	〃 ②	
10	〃 ②	10	13.肝がんの分子機構①	
11	6. 慢性膵炎の線維化機構①	11	〃 ②	
12	〃 ②	12	14.肝再生機構①	
13	7. 食道がん治療のストラテジー①	13	〃 ②	
14	〃 ②	14	15.肝線維化機構①	
15	8. 分子標的治療の実際①	15	〃 ②	

講義担当者承認 ④

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器・肝臓病分子病態学Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	松本伸行	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年(2年でも可)	
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。			
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2.消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法の作用機序を理解し説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	分子標的治療(Ⅰ)	1	分子標的治療(Ⅵ)	
2	〃 (Ⅱ)	2	〃 (Ⅶ)	
3	〃 (Ⅲ)	3	〃 (Ⅷ)	
4	〃 (Ⅳ)	4	〃 (Ⅸ)	
5	〃 (Ⅴ)	5	〃 (Ⅹ)	
6	モノクローナル抗体(Ⅰ)	6	モノクローナル抗体(Ⅲ)	
7	〃 (Ⅱ)	7	〃 (Ⅳ)	
8	抗体治療基礎(Ⅰ)	8	抗体治療基礎(Ⅳ)	
9	〃 (Ⅱ)	9	〃 (Ⅴ)	
10	〃 (Ⅲ)	10	〃 (Ⅵ)	
11	抗体治療応用(Ⅰ)	11	抗体治療応用(Ⅳ)	
12	〃 (Ⅱ)	12	〃 (Ⅴ)	
13	〃 (Ⅲ)	13	〃 (Ⅵ)	
14	膵癌化学療法(Ⅰ)	14	膵癌化学療法(Ⅲ)	
15	〃 (Ⅱ)	15	〃 (Ⅳ)	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化管病態学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	伊東文生	担当教員連絡先	内線 3470	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内容 (出席Ⓞ)	
1	1. 食道疾患症例①	1	" ④	
2	" ②	2	" ⑤	
3	" ③	3	" ⑥	
4	" ④	4	4. 大腸疾患症例①	
5	" ⑤	5	" ②	
6	" ⑥	6	" ③	
7	2. 胃・十二指腸疾患症例①	7	" ④	
8	" ②	8	" ⑤	
9	" ③	9	" ⑥	
10	" ④	10	5. 消化管その他症例①	
11	" ⑤	11	" ②	
12	" ⑥	12	" ③	
13	3. 小腸疾患症例①	13	" ④	
14	" ②	14	" ⑤	
15	" ③	15	" ⑥	

講義担当者承認 Ⓞ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	肝臓病態学Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	鈴木通博	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席Ⓞ)	後期(回)	内容 (出席Ⓞ)	
1	1. ウイルス性肝炎症例①	1	4. 胆道系症例①	
2	〃 ②	2	〃 ②	
3	〃 ③	3	〃 ③	
4	〃 ④	4	〃 ④	
5	〃 ⑤	5	〃 ⑤	
6	2. 肝細胞がん症例①	6	5. 膵疾患症例①	
7	〃 ②	7	〃 ②	
8	〃 ③	8	〃 ③	
9	〃 ④	9	〃 ④	
10	〃 ⑤	10	〃 ⑤	
11	3. 代謝性肝炎症例①	11	6. 肝・胆・膵その他症例①	
12	〃 ②	12	〃 ②	
13	〃 ③	13	〃 ③	
14	〃 ④	14	〃 ④	
15	〃 ⑤	15	〃 ⑤	

講義担当者承認 Ⓞ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅱ		必修/選択	選択
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年	
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。			
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。			
達成目標	1.消化器内視鏡の原理を理解する。 2.上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	内視鏡原理(Ⅰ)	1	内視鏡原理(Ⅲ)	
2	〃 (Ⅱ)	2	〃 (Ⅳ)	
3	前処置(Ⅰ)	3	前処置(Ⅲ)	
4	〃 (Ⅱ)	4	〃 (Ⅳ)	
5	上部消化管内視鏡挿入(Ⅰ)	5	上部消化管内視鏡挿入(Ⅳ)	
6	〃 (Ⅱ)	6	〃 (Ⅴ)	
7	〃 (Ⅲ)	7	〃 (Ⅵ)	
8	下部消化管内視鏡挿入(Ⅰ)	8	下部消化管内視鏡挿入(Ⅳ)	
9	〃 (Ⅱ)	9	〃 (Ⅴ)	
10	〃 (Ⅲ)	10	〃 (Ⅵ)	
11	内視鏡画像特論(Ⅰ)	11	内視鏡画像特論(Ⅳ)	
12	〃 (Ⅱ)	12	〃 (Ⅴ)	
13	〃 (Ⅲ)	13	〃 (Ⅵ)	
14	抄読会	14	抄読会	
15	〃	15	〃	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器・肝臓病総論V		必修/選択	必修
担当教員	高橋秀明	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2.基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席Ⓜ)	後期(回)	内容 (出席Ⓜ)	
1	1. B型肝炎の新しい治療 ①	1	6. 自己免疫性肝炎 ①	
2	〃 ②	2	〃 ②	
3	〃 ③	3	〃 ③	
4	2. C型肝炎の抗ウイルス療法 ①	4	7. 胆石治療①	
5	〃 ②	5	〃 ②	
6	〃 ③	6	〃 ③	
7	3. 肝移植 ①	7	8. 自己免疫性膵炎①	
8	〃 ②	8	〃 ②	
9	〃 ③	9	〃 ③	
10	4. 劇症肝炎の治療 ①	10	9. 急性膵炎	
11	〃 ②	11	〃 ②	
12	〃 ③	12	〃 ③	
13	5. NASH ①	13	10. 慢性膵炎①	
14	〃 ②	14	②	
15	〃 ③	15	③	

講義担当者承認 Ⓜ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器・肝臓病総論VI		必修/選択	選択
担当教員	奥瀬千晃	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	興味ある症例・問題症例について検討し消化器・肝臓疾患の病態を深く理解する。			
講義計画	興味ある症例・問題症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を理解する応用力を身につけ、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患について病態を理解する応用力を取得し、理論的に説明できる。 2.消化器・肝臓疾患の病態に基づき、最新のエビデンスを導入した治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席㊟)	後期(回)	内容 (出席㊟)	
1	1. 大腸がんの遺伝子診断①	1	〃②	
2	〃②	2	9. 消化器がん化学療法 up date①	
3	2. 分子腫瘍学①	3	〃②	
4	〃②	4	10.ウイルス肝炎の進歩①病態・診断	
5	3. 転移の分子機構①	5	〃②	
6	〃②	6	11.ウイルス肝炎診療の進歩②治療	
7	4. 膵がんの分子機構①	7	〃②	
8	〃②	8	12.ウイルス性肝炎の肝外病変①	
9	5. 慢性膵炎の up to date①	9	〃②	
10	〃②	10	13.肝がんの分子機構①	
11	6. 慢性膵炎の線維化機構①	11	〃②	
12	〃②	12	14.肝再生機構①	
13	7. 食道がん治療のストラテジー①	13	〃②	
14	〃②	14	15.肝線維化機構①	
15	8. 分子標的治療の実際①	15	〃②	

講義担当者承認 ㊟

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器・肝臓病分子病態学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。			
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。			
達成目標	1.消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2.消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法の作用機序を理解し説明できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	肝癌の癌遺伝子(Ⅰ)	1	肝癌の癌遺伝子(Ⅳ)	
2	〃 (Ⅱ)	2	〃 (Ⅴ)	
3	〃 (Ⅲ)	3	〃 (Ⅵ)	
4	肝癌の癌抑制遺伝子(Ⅰ)	4	肝癌の癌抑制遺伝子(Ⅳ)	
5	〃 (Ⅱ)	5	〃 (Ⅴ)	
6	〃 (Ⅲ)	6	〃 (Ⅵ)	
7	発癌危険因子(Ⅰ)	7	発癌危険因子(Ⅳ)	
8	〃 (Ⅱ)	8	〃 (Ⅴ)	
9	〃 (Ⅲ)	9	〃 (Ⅵ)	
10	発癌メカニズム(Ⅰ)	10	発癌メカニズム(Ⅳ)	
11	〃 (Ⅱ)	11	〃 (Ⅴ)	
12	〃 (Ⅲ)	12	〃 (Ⅵ)	
13	発癌コントロール(Ⅰ)	13	発癌コントロール(Ⅳ)	
14	〃 (Ⅱ)	14	〃 (Ⅴ)	
15	〃 (Ⅲ)	15	〃 (Ⅵ)	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化管病態学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	池田裕喜	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年(2年でも可)	
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席⑩)	後期(回)	内容 (出席⑩)	
1	1. 食道疾患症例①	1	" ④	
2	" ②	2	" ⑤	
3	" ③	3	" ⑥	
4	" ④	4	4. 大腸疾患症例①	
5	" ⑤	5	" ②	
6	" ⑥	6	" ③	
7	2. 胃・十二指腸疾患症例①	7	" ④	
8	" ②	8	" ⑤	
9	" ③	9	" ⑥	
10	" ④	10	5. 消化管その他症例①	
11	" ⑤	11	" ②	
12	" ⑥	12	" ③	
13	3. 小腸疾患症例①	13	" ④	
14	" ②	14	" ⑤	
15	" ③	15	" ⑥	

講義担当者承認 ⑩

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(17)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	肝臓病態学Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	伊東文生	担当教員連絡先	内線 3470	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年(2年でも可)	
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	1.基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2.肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓟ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓟ)	
1	1. ウイルス性肝炎症例①	1	4. 胆道系症例①	
2	” ②	2	” ②	
3	” ③	3	” ③	
4	” ④	4	” ④	
5	” ⑤	5	” ⑤	
6	2. 肝細胞がん症例①	6	5. 膵疾患症例①	
7	” ②	7	” ②	
8	” ③	8	” ③	
9	” ④	9	” ④	
10	” ⑤	10	” ⑤	
11	3. 代謝性肝炎症例①	11	6. 肝・胆・膵その他症例①	
12	” ②	12	” ②	
13	” ③	13	” ③	
14	” ④	14	” ④	
15	” ⑤	15	” ⑤	

講義担当者承認 Ⓟ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(18)

講義コード	※	専攻分野	内科科(消化器・肝臓内科)	
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅲ		必修/選択	選択
担当教員	安田 宏	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。			
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。			
達成目標	1.消化器内視鏡の原理を理解する。 2.上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。			
講義内容				
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)	
1	内視鏡症例(I)	1	内視鏡症例(I)	
2	〃 (II)	2	〃 (II)	
3	〃 (III)	3	〃 (III)	
4	〃 (IV)	4	〃 (IV)	
5	〃 (V)	5	〃 (V)	
6	内視鏡特論(上部)	6	内視鏡特論(上部)	
7	〃 (下部)	7	〃 (下部)	
8	〃 (臍)	8	〃 (臍)	
9	内視鏡症例(VI)	9	内視鏡症例(VI)	
10	〃 (VII)	10	〃 (VII)	
11	〃 (VIII)	11	〃 (VIII)	
12	〃 (IX)	12	〃 (IX)	
13	〃 (X)	13	〃 (X)	
14	抄読会	14	抄読会	
15	〃	15	〃	

講義担当者承認 ◎